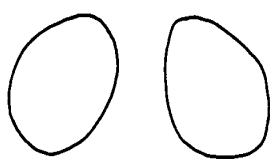
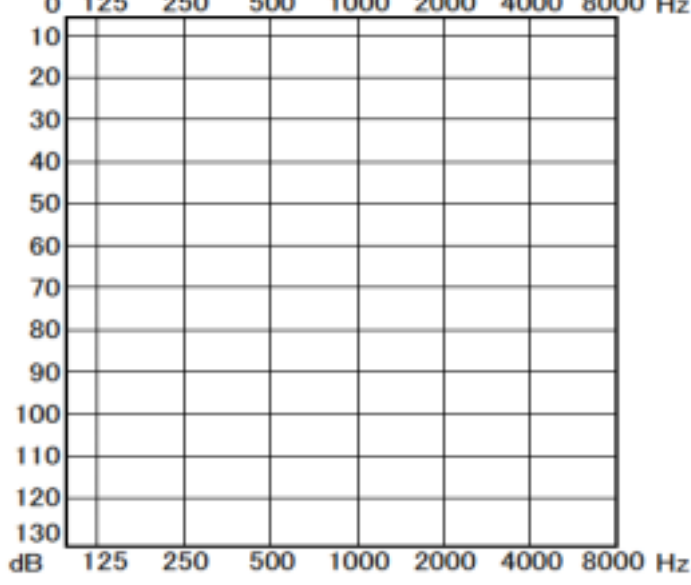


補装具費支給意見書(補聴器)

氏名		男女	生年月日	大 昭 平	年 月 日生	歳
住所						
身体障害者手帳	交付年月日	年 月 日	障害名			級
原因となる疾病名・外傷名				交通・労災・その他の事故		
	疾病・外傷の発生年月日			年 月 日	戦傷・戦災 疾病・先天性・その他()	
障害の種類	1 伝音性難聴		2 感音性難聴		3 混合性難聴	
鼓膜の状況		右	穿孔(有・無)	耳漏(有・無)	瘢痕(有・無)	
		左	穿孔(有・無)	耳漏(有・無)	瘢痕(有・無)	
聴力検査結果	【オーディオメーターの型式】					
				語音明瞭度 (使用語表) (実施法 :オーディオメーター 耳元で肉声) 右 _____ % (dB) 左 _____ % (dB) SRT(語音聴取閾値) 右 _____ dB 左 _____ dB 記入の仕方 気導 : 右耳 _____ 左耳 × 骨導 : 右耳 [_____ 左耳]		
聴力	右	dB	左	dB	平均聴力レベル(気導聴力レベルの4分法)を記入	
装用耳	右耳 _____ 左耳 _____ 両耳 _____					
	【両耳装用が必要な場合はその医学的理由】					

単語リストの検査法

この検査は、補聴器装用により、単語がどの程度聞きとれるかということを見るものです。

- 1 机に、面談するような形で対座して下さい。
- 2 被検査者(以下、本人という)に補聴器を装用させ、一番会話しやすいように補聴器のボリューム等を調節して下さい。
- 3 あらかじめテストの主旨と方法を本人の納得のいくまでよく説明して下さい。
- 4 補聴器は検査者が手にもって、検査して下さい。
- 5 単語リストの右上の単語(「顔」)をまず普通の声で、ユックリ、ハッキリと発音して下さい。その際、本人に口元をみせないように紙等でさえぎって下さい。
- 6 正しく回答すれば、その単語の右空欄に 印を、間違った場合や、いえなかった場合は×印をつけて下さい。
(検査者は、本人が聞こえにくいからと訴えても、もう一度同じ単語を発音する必要はありません。)
- 7 これを左上の「言葉」から下へ順番に、「ほしい」まで50単語やって下さい。
- 8 検査がすめば、 印のついたものを数え、正答率を出して下さい。
(印×2 = 正答率)
- 9 最後に単語リストの空欄等に、検査日、本人氏名、検査者氏名、使用補聴器の種類とボリューム、並びに、どちらの耳に装用したかを、また、場合により検査者の感想等を記入して下さい。

- 注) 1 検査方法を本人に理解させることが最も大切です。従って、検査の途中で理解不十分と判断した場合は、もう一度はじめからやりなおして下さい。
- 2 口元をみせないと非常に回答率の悪い場合は、その検査がすんだあと、今度は口元をみせて同じ検査をくりかえして下さい。
その場合は必ず単語リストにその旨記入し、また、当所には両方の検査結果を送付して下さい。

単 語 リ ス ト

氏名: (男・女) 年齢 歳 検査日 平成 年 月 日

補聴器装用耳(右・左) 使用した補聴器(高度・重度) Vol. 検査者名:

検査結果及び正答率(正答率% = 印の数 × 2)

補聴器を装用し、口元を隠して(%) + 口元も見せて(%)

言葉	ごはん	下	卵	顔
ゆっくり	忘れる	朝	名前	長い
学校	歩く	安い	テレビ	電気
はっきり	小さい	タタミ	起きる	話
頭	雨	町	家	上
面白い	読む	聞える	帰る	足
新聞	年	子供	座る	分る
食べる	高い	仕事	道	飲む
水	時間	からだ	早い	多い
病気	先生	くち	大きい	ほしい

実施方法: 補聴器を装用し、口元を絶対に見せないようにして実施する。

事前に予めやり方をよく説明し、一語ずつ注意力が集中されているか否かに気を配りつつ、リストを順に読む。

一語は一回ずつを原則とする。

結果を の欄に × で記入する。

で正答率が80%未満であった場合、×のみを で再度行う。

は、口元を見せて特に誇張せず、普通の早さで相手の顔を見ながら読む。